

平成21年5月2日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17520343
 研究課題名（和文） 第二言語としての日本語習得・教育に関する研究のレビュー
 研究課題名（英文） Compilation of review articles on acquisition and instruction of Japanese as a second language
 研究代表者
 佐々貴 義式（通称：佐々木 嘉則）(SASAKI YOSHINORI)
 お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授
 研究者番号：00334558

研究成果の概要：

- ◆ 4年にわたりレビュー論文企画書検討会を開催して若手研究者の論文執筆を支援した。
- ◆ 24本の記事を収録した4冊のレビュー論文集（計640ページ）を発行した。
 (<http://jsl2.li.ocha.ac.jp/saizensen/> 参照)
- ◆ この論文集を毎年約300冊、国内外の主要研究室等に寄贈した。
- ◆ 既存レビュー論文の一覧などの資料をホームページ上で公開中である。
 (<http://mywiki.jp/sasac/JSLA-reviews/>)
- ◆ 白井恭弘が『外国語学習の科学』を岩波書店から刊行した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,000,000	0	1,000,000
2006年度	700,000	0	700,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,200,000	450,000	3,650,000

研究分野：複合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教科教育学、日本語教育

キーワード：第二言語習得論、応用言語学、外国語教育学、心理言語学

1. 研究開始当初の背景

日本語習得論を含む日本語教育学は1990年代以降急激な発展を遂げたが（長友1998）、研究報告論文の本数に比べてそれらを総括した総説論文（レビュー）が極めて少ない。これは、長編のレビューが応用言

語学誌に頻繁に掲載される欧米圏に比して大きく立ち後れている点である。したがってこの分野に足を踏み入れて間もない若手研究者は学位論文研究の立案において、信頼できる地図を与えられないまま不慣れな山登りをさせられるような困難を経験することになる。また、キャリアを積

んだ研究者といえども他分野に足を踏み入れた当初はやはり全体像がつかめるまでの間、定位が困難になりやすい。

2. 研究の目的

このような現況を打開するため、2002～2004年度、2005～2008年度の二次7年間にわたる科研プロジェクト（基盤（C））を通じて日本語を中心とする第二言語習得およびそれと関連する言語学的研究（談話分析等を含む）や教授法に関するレビュー論文の執筆支援と集成に着手した。

3. 研究の方法

第二言語習得論をはじめとする応用言語学の文献レビュー論文執筆を支援し、その発表公刊を促した。具体的には、レビュー論文の執筆手順や既存レビューの一覧等の情報をホームページ上で公開する（<http://mywiki.jp/sasac/JSLA-reviews/>）とともに、執筆希望者を対象に企画書検討会を開催し、白井恭弘ら専門家をコメンテーターに招いて若手研究者を支援した。それらの論文の発表の場として、『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線』を毎年刊行した。また、他誌への投稿についても希望者に助言を与えた。

4. 研究成果

文法習得、音声、読解、研究方法論などさまざまな分野で質の高いレビュー記事が蓄積できた。具体的な論文名は下記「主な発表論文等」のとおり。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 24 件）

『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線 2005 年版』掲載記事・論文

序章 認知心理学と第二言語習得研究

- ① 小柳かおる 【講演録】「言語処理の認知メカニズムと第二言語習得：記憶のシステムから見た手続き的知識の習得過程」11-36.

第1章 文法の習得

- ② 菅谷奈津恵 「日本語のアスペクト習得に関する研究の動向」39-67.
- ③ 単娜 「日本語の指示詞に関する」69-100.
- ④ 遠山千佳 「助詞「は」に関する第二言語習得研究の流れと展望：探索的研究と演繹的研究の枠組みから」101-121.

第2章 言語技能の習得

- ⑤ 石井怜子「結束性構築の視点から見た第二言語読解研究概観：スキーマ理論を超えて」125-158.
- ⑥ 楊虹「話題転換研究の概観：タイプと方略を中心に」159-185.

『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線 2006 年版』掲載記事・論文

第1章 語彙の習得

- ⑦ 徳田 恵「読解における未知語の意味推測と語彙学習」10-30.

第2章 談話の習得

- ⑧ 遠山 千佳「第二言語における談話の習得：認知語用論的アプローチからの一考察」32-52.

第3章 多言語社会における言語使用

- ⑨ 田崎 敦子「コードスイッチング研究の概観：多言語社会のコミュニケーション分析に向けて」54-84.

補章 言語習得研究の方法論

- ⑩ 向山陽子「リサーチクエスチョンを軸とした実験的習得研究の進め方：連体修飾節の教授効果研究を事例として」86-103.
- ⑪ 佐々木嘉則【解説】「研究テーマ選びにおける困難点」104-108.
- ⑫ 佐々木嘉則【資料】「分野別・日本語習得レビュー論文総覧」110-121.

『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線 2007 年版』掲載記事・論文

第1章 音声の習得と教育

- ⑬ 河野俊之【講演録】「音声教育と日本語教育と第二言語習得研究」11-28.

第2章 文法の習得

- ⑭ 大関浩美【講演録】「日本語の名詞修飾節の習得研究：SLA 理論および日本語教育への貢献を考える」30-54.

- ⑮ 孫愛維「第二言語としての日本語の指示詞習得の研究概観：非現場指示の場合」55-92.

第3章 会話場面の言語使用

- ⑯ 張瑜珊「初対面会話における対人関係構築プロセスの研究概観：会話データからの研究を中心に」94-118.

『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線 2008 年版』掲載記事・論文

第1章 談話と語用論

- ⑰ 牧野 成一【講演録】「日本語の談話における数表示「タチ」のシフト」10-23.

- ⑱ 大谷 麻美「謝罪研究の概観と今後の課題-日本語と英語の対照研究を中心とした考察-」24-43.

第2章 言語教育

- ⑲ 池田 玲子・原田 三千代【講演録】「ピア・レスポンスの現状と今後の課題」46-83.

第3章 習得と誤用の条件

- ⑳ 奥野 由紀子【講演録】「第二言語習得過程における言語転移の認証を求めて-名詞修飾における「の」を中心に-」86-106.

- ㉑ 長谷川 朋美「第二言語習得における臨界期仮説・年齢要因 -日本語を対象とした研究に向けて-」107-137.

第4章 言語習得研究の理論と技法

- ㉒ 大北 葉子【講演録】「脳科学と言語研究-言語活動は複雑で分からないことばかり-」140-166.

- ㉓ 張 文麗「プロトコル分析は何を明らかにしたか-習得メカニズムを探る研究の概観から-」167-190.

- ㉔ 佐々木 嘉則【問答集】「今さら訊けない新 M1 のための、第二言語習得再入門」191-243.

〔図書〕(計5件)

- ① 『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線 2005 年版』

- ② 『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線 2006 年版』

- ③ 『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線 2007 年版』

- ④ 『言語文化と日本語教育増刊特集号：第二言語習得・教育の研究最前線 2008 年版』

- ⑤ 白井恭弘 (2008) 『外国語学習の科学』 岩波書店

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々貴 義式 (通称：佐々木 嘉則)

(SASAKI YOSHINORI)

お茶の水女子大学

大学院人間文化創成科学研究科・准教授

研究者番号：00334558

(2) 研究分担者

長友 和彦 (NAGATOMO KAZUHIKO)

宮崎大学・教育文化学部・教授

研究者番号：60164448

徳永 あかね (TOKUNAGA AKANE)

神田外語大学・留学生別科・講師

研究者番号：10360091

(3)連携研究者

なし